

3 外国語科の授業を改善するポイント

言語材料の習得の授業に加え、それを活用させることを中心にした授業を単元の終末に位置づけることが大切です。

習得を中心にした授業であっても、授業の終末に自己表現など活用場を設定することが授業改善のポイントになります。



(1) 授業構想の手順

1 ゴールの設定

習得させる言語材料や文構造を自分の体験からどんな場面で使ってきたか、それを中学生で考えるとどんな活動ができるかを考えます。または、教科書の題材から何を読み取らせ、何を考えさせ、表現させたいかを考えてみます。

- 題材は中学生にとって現実性があるかを考えます。「将来使う」という場面では生徒にとっての動機付けは弱くなります。できれば、廊下でALTに会った時に使えるような題材設定や中学生であっても体験するという場面設定がよいです。

2 ゴールの具体化

単元の最後で生徒に言わせたい、書かせたい英文を書いてみます。

- 3年生の文量は、4～5文（25語～30語）程度を目安とします。
- 生徒に言わせたい、書かせたい英文には、ねらいとする文法事項、言語材料が入っているか、生徒の実態から表現できそうかをチェックします。
- スピーチなどの音声言語活動の場合は、音声表現にかかわる評価規準についても考えておきます。

3 単元の終末の活動設定

具体的に単元最後の自己表現や理解の活動を決めます。

- 具体的に書いてみた英文を表現させるために、場面や題材設定に無理がないか、表現する際に何か条件を付ける必要はないかを考えます。
- 発表などの機会は複数回与え、複数回活動させる中で途中で他者評価を設定し、再度活動を行わせるとよいです。

第3学年の例

文構造は関係代名詞で、教科書は Martin Luther King, Jr. や Cathy Freeman, Rachel Carson, Stevie Wonder を紹介する内容だ。関係代名詞は、人やものなど何かを説明する時、詳細を表すために使っている。だから、「偉大な人物の紹介」を単元のテーマにしよう。

書かせたい英文は、This is Michael Jackson. He was a singer who sang for love and peace. When I saw him on TV, I was surprised at his dance. He was also a great dancer who made people happy. で、関係代名詞を使わせることができる。

「偉大な人物の紹介」の英作文の活動では「関係代名詞を1回は使う」という条件を付けよう。また、相互評価活動では内容の不十分な点を、ALTからは綴り、文法の間違いを指摘してもらい、書き直すようにしよう。その後、英文の輪読会を設定しよう。

4 単元の導入の活動設定

単元の最後の活動が決まったら、単元の導入を考えます。

- 生徒の「表現したい」「読みたい」という意欲を高める活動や場面提示などを考えます。
- 表現活動の場合、JTEとALTの会話を見せたり、前年度の生徒発表をモデルとして見せたりすると効果的です。
- 提示では、JTEの失敗の様子や、会話を途中までを見せて「続きが知りたい」と感じさせてもよいです。しかし、あまりにも立派なモデルを見せると逆に「自分にはできない」と感じさせる場合があるので、モデル提示は生徒の実態に合わせて慎重に行う必要があります。

5 教科書の取り扱いなど展開の活動設定

教科書をどのように取り扱うかを決めます。

- 教科書の本文を自己表現する際の英文モデル、文章構成モデルとする場合は、文構造や文章構成を説明します。また、音声表現活動を設定する場合は、音読指導をする必要があります。しかし、本文のすべてを精読させる必要はありません。
- 教科書の本文の内容を味わう場合は、下記のような3段階のReadingを構想します。この場合、第3段階で表現活動を行いますので、すべての生徒が内容を理解している必要があります。よって、日本語訳や要約等が必要となります。

第1段階 手がかりとなる語句や表現の意味をつかませます。

○オーラル・イントロダクションなどで登場人物や主人公を確認

第2段階 中心となる部分や話の展開を問います。

○True or False やQ&Aで段落のトピック・センテンスの意味内容を確認し、次に各段落の意味内容を確認

第3段階 話の内容に関して感想や意見とその理由などを話したり、書いたりさせます。

○ディスカッションや紙上意見（感想）交換などで個人が複数回表現する場を設定

写真や映像を提示しながら、Michael Jacksonを紹介し、「みんなにとっての偉大な人物、影響を受けた人物は誰か」と発問すれば、生徒の表現意欲は高まり、紹介する人物の候補が出るはずだ。ただし、難しいと感じさせてはいけないので、口頭で紹介するだけでなく、英文も提示して内容を確認しよう。

教科書の内容は Martin Luther King, Jr.や Cathy Freeman, Rachel Carson, Stevie Wonder の功績についてだ。だから、教科書本文や基本本文は、すべて精読させるのではなく、人物紹介の英文モデルとして取り扱うことにしよう。

その際、人物について「何をしている人か」や「有名な言葉や作品」など、どのような情報を書いているかのQ&Aをしよう。また、関係代名詞を使った文でどのような情報を表現しているかを確認しよう。

6 教材の作成、活動の支援準備

生徒の実態から必要な支援を考えます。

① 言語材料や文構造の習得のために

- 生徒が表現をマネできるように例を示します。
- 必要な表現は、何度か繰り返し練習させるようにします。
- ワークシートに英文の型（空所補充形式などで）を示して支援します。
- 必要であれば、「インタビューは一人で行うのではなく、二人組で一緒に相手を探して質問する」など、活動のルールを再考します。
- 既習事項を新出事項と一緒に使わせるなど、関連ある文法事項を活動の度に何度も繰り返し学習させ、定着を図ります。
- 習得の授業では、別の場面で使わせてみる、相手を変えて使わせてみるなど、繰り返し使用させることを意識します。

② 言語材料や文構造の活用のために

- 英作文など文章表現活動を行う際には、途中で「読み手にとって内容は十分か、英文は正確か」の視点で相互評価活動を設定します。
- 書き終えた後は、輪読や興味のある英作文をいくつか読み、感想をカードに書き、読んだ英作文に添付させるなど、表現した結果、成果を得られるようにします。
- スピーチなど音声表現活動を行う際には、発表前に音読指導を行い、相互評価活動や練習する時間を設定します。
- 小学校で指導している「適切な声量」「明瞭に話す」「聞き手の方を向いて話す」については中学校入学時から指導します。
- 「聞き手が理解していない時は繰り返して言う」「別の表現で言い直す」「大切な所は強調して話す」などについては、生徒の実態に応じて徐々に指導します。

関係代名詞を人物紹介の例文を使って説明しよう。

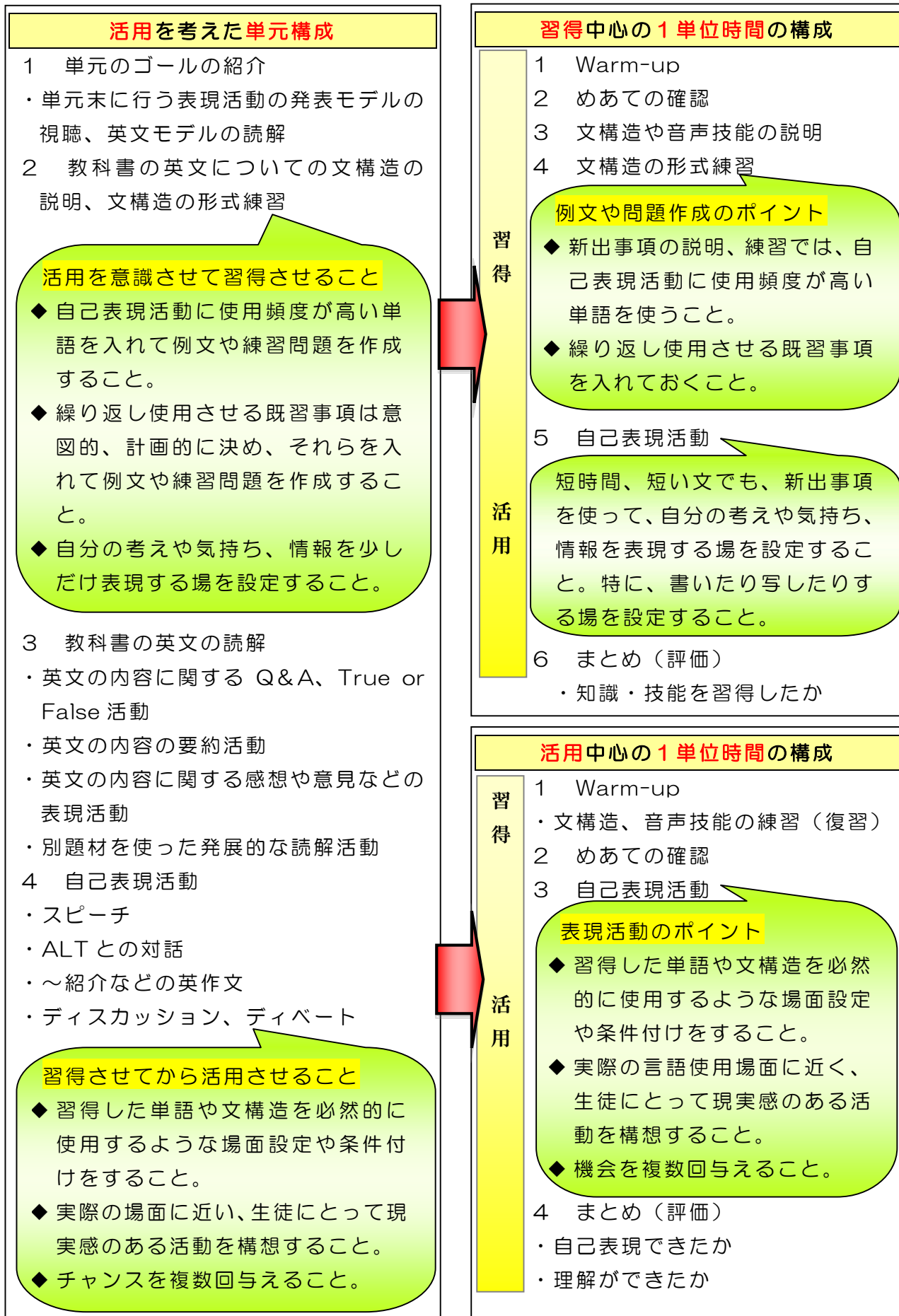
また、関係代名詞を使った人物紹介の英文を書いたり、読んで理解したりする知識・理解のための練習問題を準備しよう。

偉大な人物について思いつかない、思いつくが関係代名詞を使って書けない生徒がいることが考えられる。そこで、まず Mother Teresa や Pele など、ある人物とその情報を教師が提示し、それをもとに人物紹介を書く練習の活動を設定しよう。

生徒の相互評価活動では内容の不十分な点を中心に、ALT からは綴り、文法の間違いを指摘してもらうようにしよう。

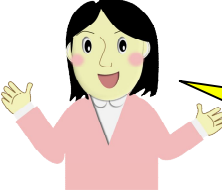

他班の生徒の英作文を 5 作品読み、感想をカードに書かせ、筆者に渡すようにして達成感をもたせるようにしよう。

(2) 活用を考えた単元構成と1単位時間の構成



(3) 外国語科の評価の観点と評価規準

< 中学校外国語(英語)の評価の観点と評価規準 >

評価の観点	評価規準
<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> 	<p>○より多くの人と関わろうとして会話するなど、何度も言語活動に取り組む。</p> <p>○表現したい内容がより相手に伝わるように、多くの単語や英文で表現する。(文法的に間違ってもよい)</p> <p>○表現したい内容がより相手に伝わるように、会話において、より多くの発言をしたり、より多くの情報を伝えたりする。(英文でなく単語のみであってもよい)</p> <p>聞き取りが難しいと思った時は、分かりやすいように繰り返して言ったり、英語が思いつかない時はそのことに近い表現で言い換えたりするような指導をしましょう。</p>
<p>外国語表現の能力</p> 	<p>○学校や日常生活で体験したこと、夢などのテーマについて文法、構成、音声の点から、正確に自分の考えや気持ち、情報などを話したり、書いたりする。</p> <p>○語と語のつながり、文と文のつながりをもたせて文章を書く。</p> <p>○場面や相手に応じて、適切に話したり書いたりする。</p> <p>○発音や強勢、イントネーション、区切りなどを正しく話す。</p> <p>小学校で育まれたコミュニケーションへの関心・意欲・態度を生かして福岡県の課題である外国語表現の能力、特に書く力を高めましょう。</p>
<p>外国語理解の能力</p>	<p>○まとまりのある英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向や具体的な内容などを理解する。</p> <p>○話の内容や書き手の意見などに対して、感想を述べたり賛否とその理由を示したりできるように、書かれた内容や考え方などをとらえる。</p> <p>○会話において相手が伝えていることを理解できない時は、質問などして確認する。</p>
<p>言語や文化についての知識、理解</p>	<p>○文法事項や語、連語、慣用表現など英語に関する知識の設問に答える。</p> <p>○教科書の英文の発音や強勢、イントネーション、区切りなどが分かる。</p>

<評価の方法>

- 関心・意欲・態度・・・英作文（文章の数、異語数の数）
インタビューシート（会話の回数、発表の回数）
- 外国語表現の能力・・・英作文（文章の正確さ、構成）
スピーチなどの発表（発音、文章の正確さ、構成）
- 外国語理解の能力・・・英文に関する True or False テスト
空所補充による英文の要約
- 知識、理解・・・・・・・・空所補充、並べ替えなど文法の理解度を測るテスト
音読テスト、暗唱テスト

<評価補助簿の例>

評価の観点		外国語表現の能力	
	氏名	不定詞を正しく使って	同じ種類の3文セット（構成）を作って
1		A	A
2		B	B
3		B	B
4		B	A
5		A	A
6		A	A
7		A	A
8		A	A
9		B	B
10		B	B

Aは「十分満足できる」、Bは「おおむね満足できる」を意味しています。

このように、評価する内容を1つか2つに絞った評価補助簿を準備します。授業の終わり 5～10分で評価するとよいです。また、書く、読む活動については授業後に評価することも可能です。あくまで指導が中心なので、「評価に集中しすぎて指導ができなかった」とならないように注意してください。

